

言葉の旅．スペイン語のバリエーション（6）

メキシコ

メキシコシティー(Ciudad de México)から飛行機で半時間ほど北西に飛ぶと、シエラマドレ山脈(Sierra Madre)の中央高原に位置するサカテカス市(Zacatecas)に到着します。ここはかつて金銀の大鉱山があった町で、植民地時代の美しい建築物や町並みがよく保存されています。この町で 1997 年に「第 1 回国際スペイン語学会」(Primer Congreso Internacional de la Lengua Española)が開催されました。コロンブスのアメリカ大陸到達 500 年を記念して 1992 年メキシコのエルネスト・セディヨ前大統領が提案し、メキシコ公共教育局とスペイン・セルバンテス協会が主催して実現したものです。セディヨ大統領とスペイン国王フアン・カルロス、そして二人のノーベル賞作家ガブリエル・ガルシア・マルケス(Gabriel García Márquez)とカミロ・ホセ・セラ(Camilo José Cela)も招かれ大変な力の入れようでした。



【写真 1】ラテンアメリカ・タワーから見たメキシコシティー市街



【写真2】メキシコシティー・レフォルマ大通り

初日のセレモニーの後，新聞，ラジオ，テレビ，映画などのスペイン語の社会言語学的な諸問題(cuestiones sociolingüísticas)について研究発表とパネル・ディスカッションが行われました．学会というよりも「テレビ討論会」という形で，数台のテレビカメラの前で強いライトを浴びながら発表や質疑が行われ，発表者は新聞記者やラジオ・テレビ局の特派員などのインタビューでスペイン語に関する様々な質問を受けました．スペイン語学は地味な研究分野なので，こんなにマスコミの脚光を浴びたことは少なくとも私の経験にはありませんでした．

会場を出ると今度は地元の小学生に囲まれ，学校の宿題だという質問を受けました．その中に「私たちが話しているサカテカスのスペイン語はくずれた形だと新聞に書いてありましたが，本当ですか」という質問があり，私は「そんなことはありません．各地で話し方が違うだけです」と答えました．マスコミの影響力が強大なのはどこでも同じようです．

「古語」と「新語」

スペインの方言学者サモラ・ビセンテ(Zamora Vicente)は, "El léxico americano es abundante en arcaísmos"(アメリカ大陸スペイン語の語彙には古語が多い)と述べています(*Dialectología Española*, 1967). たとえば, 次の表の左列の語は昔スペインで使われていたものですがアメリカ大陸では今でも広い範囲で使われています. スペインでは中央列の語に変わりました.

アメリカ大陸	スペイン	意味
amarrar	atar	しばる
balde	cubo	バケツ
botar	tirar	投げる
durazno	melocotón	モモ(桃)
enojarse	enfadarse	怒る
foráneo	extranjero	外国の
frijol	judía	インゲンマメ
lindo	bonito, excelente	きれいな, すばらしい
valija	maleta	スーツケース

この中の botar についてコロミナス(J. Corominas)と J.A.パスクアル(J.A. Pascual)の語源辞典は次のように説明しています(*Diccionario Crítico Etimológico Castellano e Hispánico*, Gredos, 1980).

Significó antiguamente 'lanzar, arrojar, tirar', con aplicación a cualquier objeto (*botar una piedra, botar el pañuelo*), extensión semántica hoy conservada casi en toda América y en las hablas leonesas y gallegoportuguesas, así como en el vasco. En el resto de España el vocablo alcanzó menor vitalidad y pronto tendió a tomar el matiz de 'arrojar con violencia'

かつては「投げる, 捨てる」という意味で, たとえば「石を投げる」「ハンカチを投げる」のようにどのような対象物にも用いられた. この意味範囲は今日アメリカ大陸のほぼ全域と(スペインの)レオン方言, ガリシア・ポルトガル語そしてバスク語に残っている. スペインの他の地域ではこの語の勢力は弱く, やがて「乱暴に投げる」というニュアンスを

帯びるようになった。

しかし、これらの言葉は現在でも広い範囲で使われているので、これらを闇雲に「古語」(arcaísmos)ときめつけるのはおかしなことです。むしろスペインで「新語」(neologismos)に変わったことに注目すべきでしょう。次は、メキシコを代表するスペイン語学者フアン・ロペ・ブランチ(Juan Lope Blanch)さんの論文からの引用です("El supuesto arcaísmo del español americano", *Estudios sobre el español de México*, UNAM, México)。

Podría calificarse de arcaizante o conservadora una norma particular que haya mantenido en uso un elevado número de formas olvidadas por todas o por la gran mayoría de las hablas hispánicas, en especial si entre éstas se hallan las de mayor prestigio.

「すべての、または大部分の(とりわけその中に大きな威信がある話し方が含まれる)スペイン語の話し方の中で忘れられてしまった形式が特定の標準語に多数保存されているならば、それを古風または保守的とみなしてよいだろう」

さらに、「アメリカ大陸のスペイン語」と一言で言えるような単純なものではなく、スペイン語研究はその全容を知るレベルにまで至っていないと指摘しています。



【写真3】サカテカスの街角



【写真4】サカテカスの民族衣装

言葉の広がり...「スーツケース」

今回は先の表の中の「スーツケース」を取り上げましょう。表を見るとアメリカ大陸では唯一 **valija** が使われ(地図では V), スペインでは **maleta (M)** が使われるような書き方になっていますが, 各地を調査してみると実態はさらに複雑です。キューバ, ドミニカ共和国, プエルトリコ, メキシコ, コスタリカ, ボリビア, チリ, アルゼンチンでは **maleta** が **valija** とともに使われています。しかし, スペインでは唯一 **maleta** で, **valija** はやはり使われません。それから, メキシコには他に **veliz (Vz)** や **petaca (P)** という語もあります。



【地図】「スーツケース」

【課題 6a】 Lipski (1996: 294-299) を読み、メキシコの歴史とスペイン語の諸相との関係について考察しなさい。

【課題 6b】 Lipski (1996: 304) にはメキシコの形態的特徴として、次の *no más (=sólo)* と *ya mero (=casi)* が挙げられている。各種の資料やインターネットによってその歴史的・地理的分布を調べなさい。

- No más quería platicar contigo.
- Ya mero me caigo.

* 参考: Corpus del Español: <http://www.corpusdelespanol.org/>, Google など

【課題 6c】 「スーツケース」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙バリエーションについて調べなさい。

* 参考: Varilex: <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/>